

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

都道府県名	38_愛媛県
市区町村名	38488鬼北町
自治体区分	

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
38488鬼北町	②学校と地域の課題	05 その他	人口減少やコロナ禍の影響により、地域のつながりが希薄化したことで、学校においても児童生徒が多様な地域人材と関わることができず、自ら学び学習する機会が減少している。	町内の各学校に地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）を常駐させ、地域住民等の協力を得ながら地域における学習支援等を実施。	令和7年度も引き続き地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）を町内各小中学校に常駐させ、地域住民等の協力を得ながら、多様な地域人材と関わり学ぶことで、児童生徒の学習意欲・自主性の向上を目指す。	地域住民等の参画による学習支援や体験活動を通じ、児童生徒の自主性や学習意欲の向上を図る。	総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を収集、整理して調べたことを発表する学習活動に取り組んでいる割合。（全国学力・学習状況調査）	35	%	40	38	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫改善が求められる 地域学校協働活動推進員が、学校と地域住民との連絡調整を行い、地域住民等の参画による学習支援や体験活動を実施。一人一研究といった取り組みや郷土学をはじめキャリア教育の推進など、多様な地域人材と関わり、様々な学習活動を実施した。コロナ禍後、地域住民と連携・協働も復活し始めて、児童生徒の教育活動がより効果的に行われるようになったものの、高齢化及び人口減少が著しく、事業実施に苦慮する部分もあるが、引き続き当事業に対する地域住民の理解を促進し、児童生徒の学びに対する自主性の向上を図りたい。